

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 114

平成25年度 3号

公益社団法人秋田県看護協会会報

[目次]

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 第44回 日本看護学会－成人看護Ⅱ－学術集会を終えて | 10 災害支援ナース講習会 |
| 4 シリーズ看護部長が看護の想いを語る | 11 リスクマネジャー交流会／安全情報 |
| 5 シリーズ認定看護師 こまち紹介 | 12 理事会だより |
| 6 地域看護 フライトナースの役割 | 13 平成25年度 環境・保健事業 功労者表彰 |
| 7 地区活動報告 | 14 役員の立候補並びに推薦について |
| 9 平成25年度 看護職員再就業促進事業 | 15 事務局からのお知らせ |



秋田内陸縦貫鉄道
提供：潟上市飯田川 伊藤甚昭

平成25年度会員数(9月30日現在) 6,957名

保健師 298名 助産師 319名 看護師 6,062名 准看護師 278名

第44回

日本看護学会

－成人看護Ⅱ－学術集会



開会式



公益社団法人秋田県看護協会
会長 鳥 トキエ

公益社団法人日本看護協会
会長 坂本 すが氏



アトラクション



パネルディスカッション



アトラクション

シンポジウム
「支え つなぐ チーム医療の現状と未来」
(秋田県民会館)



示説発表



口演発表 にぎわい交流館会場



坂本すが氏

特別講演「支えつなぐ看護の未来」

特別講演

「支えつなぐ看護の未来」

坂本会長は、超高齢多死社会を支える看護の真髄とこれからの方向性を述べられた。看護職は、他職種と協力して患者の生活を支える、その際、チームの要になるためには、主体的に判断する間隙手となること、そのためには、看護の質の向上に努め、新しい看護領域の拡大も視野に入れ、予測する力・洞察力・判断力・采配する力が必要であるとの力強い講演に、学生をはじめ参加者は大きな勇気をいただいた。

教育講演Ⅰ「病気はなぜあるのか？」

長谷川眞理子氏は、すべての生物は適応進化する。人類も、中立進化と適応進化を行い、現代に至った。私たちの体はなぜ今のような反応をするか、病気はなぜあるのかを、適応進化の視野で述べられた。人類は、今後も環境変化や病気と闘い進化していく、それを支えるのが看護職であることを学んだ。



長谷川眞理子氏

教育講演Ⅰ「病気はなぜあるのか？」



尾岸恵三子氏

教育講演Ⅱ「命・生きるを支える食看護学」

教育講演Ⅱ「いのち・生きるを支える食看護」

尾岸恵三子氏は、食は命の源であることを説き、入院患者への“スケッチ法”による調査から、その人それぞれの食への思いを確認すると共に、看護者に求められる食看護のありようを述べた。

公開講演「生きることを感じる」

水中写真家、中村征夫氏は、美しい水中生物の映像から環境保全の大切さを説きながら、機知に富んだ漢文のトークを展開された。



中村征夫氏

公開講座「生きることを感じる」



口演発表 ジョイナス会場

パネルディスカッション

「慢性疾患領域でのチャレンジ」

看護師特定行為・業務試行事業の実施状況の報告後、看護業務の可能性について意見交換が行われた。

シンポジウム

「支えつなぐチーム医療の現状と未来」

がん専門看護師・外来看護師・医師・認定薬剤師・患者の立場から発言いただいた。特に、患者の立場の工藤氏から紹介された、ある患者さんからのお便りは、がん告知など、患者にとって重大な出来事における患者心理、看護者への期待が切々と伝わり、看護の在り方を考えさせられた。

特別企画は、すべてテーマに繋がり好評を得ることができた。

第44回 日本看護学会 —成人看護Ⅱ— 学術集会を終えて



日本看護学会-成人看護Ⅱ-学術集会-
準備委員会 委員長 宮堀 真澄

10月3日・4日、秋田市において第44回日本看護学会—成人看護Ⅱ—学術集会が開催され、お陰様で天候に恵まれ、内容においては好評価をいただき盛会裏に終了いたしました。日看協はじめ、多くの方々のご支援・ご協力を賜り、皆様に心から御礼を申し上げます。

発表演題数は304題、参加者は1,738名で、将来を担う県内・県外の看護学生368名にも参加いただき大変嬉しく思います。参加者の皆様には、本学術集会全体を通して、「支えつなぐ看護の未来」について、生活と医療を支えつなぐとはどういうことなのか、看護職がどのような役割をはたせるのかを考える機会となり、新たな挑戦の活力につながることを期待しております。

会場の環境面での問題もありましたが、企画実行委員の機転の利く運営で乗り切ることができたことに深謝いたします。また、ランチョンセミナー、企業展示にご協力いただきました業者の皆様に感謝申し上げます。

本学会は平成26年度より新しい7領域に統合・再編成されます。学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。



ランチョンセミナー

ランチョンセミナー

10月3日：慢性心不全患者の長期管理と利尿剤
講師：佐野元昭氏

10月4日：中心静脈栄養の重要性と感染対策の実例
講師：井上善文氏



看護部長が看護の想いを語る

No.
11

地方独立行政法人 秋田県立病院機構
秋田県立脳血管研究センター
看護部長

桜田 則子さん



「すてきなナースの心映え」を糧に変革する組織へ

組織について

秋田県立脳血管研究センター(通称:脳研)は、秋田の名勝である千秋公園を望む地にあり、昭和43年に「脳卒中の撲滅」という秋田県民の切実な願いにより開設されました。

脳研は126床・8診療部を有し、研究・診療・教育を3本柱としてチーム医療を推進し、高度で専門的な医療の提供に努めております。また脳卒中の三次救急医療機関としての機能充実を図るため、平成24年4月よりドクターヘリが導入され、いち早く初期治療を開始することが可能となりました。地域医療の充実をめざして、職員一丸となり日々奮闘しております。

看護に対する想い

平成24年度より、脳研の4代目となる看護部長の任に就きました。赴任当初は、すべてが慣れない事ばかりで戸惑いましたが、諸課題の解決に向けた体制を構築するにあたり、前向きでオープンマインドな看護部の職員はじめ事務の方々が力を貸してくれました。

看護師を長く続けてきた私のインスピレーションの源の一つとなっているものは、かつての上司が「チェンジは、チャンスですよ。『3C』、Chance(チャンス)・Challenge(チャレンジ)・

Change(チェンジ)の精神が大好きです」と話された言葉です。

今年度は「患者さんも看護師も満足が得られる質の高い看護の実践」を目指して、看護部で取り入れている固定チームナーシングを新たに手術室と外来に導入致しました。また改訂したクリニカルラダーに認定・更新制度を盛り込み、活用を始めました。クリニカルラダーの運用・周知は、教育委員会のメンバーが率先して取り組んでいます。

看護師を目指した時の「患者さんに寄り添う看護がしたい」「患者さんやご家族の笑顔が見たい」の初心を忘れずに、「3C」の精神で職場環境・組織風土づくりに貢献していきたいと考えております。

伝えたいメッセージ

「すてきなナースの心映え」を糧に変革する組織へ

医療の高度化に伴い看護職に求められる役割は日々増大しています。社会の要請に対応できるよう看護師自身が、変化することを恐れずに問題解決に取り組んでいくことが大切だと思います。脳研の看護部には、昭和55年より引き継がれてきた「素敵なナースの心映え“あなたの後ろ姿がみえますか”」の精神が今も脈々と引き継がれています。「心映え」とは、心のひろがり、思いやりという意味をもっています。先輩たちの看護に対する想いと期待が詰まっている言葉をしっかりと受け止め、看護の質向上のために、変革できる行動がとれる組織づくりを実現するために努力したいと思います。



「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

伊藤 由紀子さん

こまち File No.31

秋田社会保険介護老人保健施設サンビュー秋田
認知症看護認定看護師

今取り組んでいること

私は介護老人保健施設で高齢者ケアに携わっています。当施設の利用者の約8割に認知機能の低下がみられます。認知症がある方への対応は今まで生きてきた歴史を尊重しながら、その人の世界に寄り添う姿勢が必要です。認知機能の低下があり、思いをうまく表出できない方の表情や仕草から何を意味するのかを総合的にアセスメントして、見当識への支援や環境調整などを行って生活を支えています。そして、スタッフ全員が継続ケアを行えるように、認知症者のアセスメント能力・知識・技術が向上できるように働きかけをしています。

皆と一緒にがんばりたいと思っていますこと

重度認知症などで徐々に食事が摂れなくなってきたりしている状態で、病院での最期を迎えるのではなく施設での看取りを家族が希望される場合、対応できるよう体制を整えています。利用者の状態の変化や経過は人それぞれで、家族支援も重要になります。今まで関わってきたことを踏まえて、認知症のある方の状態を全人的に捉え、穏やかに天寿を全うできるよう利用者、家族をサポートしていきたいと思っています。



西方 展子さん

こまち File No.32

中通総合病院
皮膚排泄ケア認定看護師

今取り組んでいること

私は平成23年12月から専従として活動をさせていただいております。主に病棟スタッフが対応に難渋しているストーマのトラブルや褥瘡のケア、あるいは褥瘡ができそうな方の予防ケアのお手伝いをしております。また、当院でストーマを作り、現在はご自宅で過ごされている方を中心に、ストーマ外来で月1回、8～10人のご相談を受けたりケアを行っております。

皆と一緒にがんばりたいと思っていますこと

高齢化が進んでいる今、当院の入院患者様も70歳以上の高齢者の方が6割を超えております。また施設と病院の入退院を繰り返している患者様も多くいらっしゃいます。その中で褥瘡を発生させないためには予防が大切であると強く感じております。スキントラブルを防ぐため、入院患者様がつやつや、すべすべの健康なお肌でいられるようスキンケアに力を入れていきたいと思っております。褥瘡リンクナースや病棟のスタッフのみなさんの力をお借りしながら、一緒に頑張っていきたいと思っております。



地域看護

地域を支え、つなぎあう
看護師の活動を紹介します。



フライトナースの役割

秋田赤十字病院
救命救急センター救急外来

鳥海 雄好さん

秋田県ドクターヘリコプターの運航が始まり、まもなく2年になり、日々の活動がようやく軌道に乗ってきたように思います。運航開始から今年9月までの要請件数は463件で未出動とキャンセル件数を除くと、実働は327件です。他県と比較すると要請件数、キャンセル率ともに低い状況です。その反面、脳疾患や心疾患、重症外傷などの転院搬送の件数は増えております。要因としては、広大な面積をもつ秋田県の南北に7施設の2次医療機関が有り、その施設で治療後、高度な医療を希望する家族が増えているためではないかと思われれます。

ドクターヘリの業務は、ヘリコプターを使った往診業務であり、超急性期や慢性疾患の急性増悪など命にかかわる疾患に関わります。限られた人材や資機材を有効に活用し、短時間に適切な治療が行われます。ドクターヘリは医師、看護師のほか操縦士、整備士及びCS（コミュニケーション・ス

ペシャリスト）の5名で活動しています。フライトナースの役割は、医師や救急隊及び運航スタッフと協力し、患者の診察や治療を行い医療機関に搬送されるまで、継続的な観察、看護そして安全に搬送することです。フライトナースは1人で、患者に適切な看護を行うことに最善を尽くします。重症疾患や多発外傷など重症例が多く、治療処置が優先されます。特殊な環境下であり、迅速かつ安全に治療処置や看護活動が行えるよう十分な知識や技術が必要とされます。個人のスキルアップのためシミュレーションや勉強会を行い、いかなる症例でも対応できるよう訓練しております。また医師が診察や治療に集中できるように、患者接触前のアセスメントや現場のコーディネートが重要になります。現場でフライトナースはリーダーシップをとり、広い視野で客観的に活動する必要があります。消防機関、医療機関、運行機関など他職種との連携が重要であり、迅速で安全に治療を行うためには、各機関とのコミュニケーションが大切です。ヘリコプター搬送で安全運行は絶対です。安全運行を行うには、離着陸時や飛行中の患者やその家族、医療機器など様々な安全管理が必要とされます。運行、医療スタッフ共に協力し安全運行に努めております。

今後もフライトスタッフ一同力を合わせて頑張りますが、不手際なことやご迷惑をかける事があると思います。その際は、ご意見を頂ければドクターヘリ活動が向上すると思います。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



左から2人目が鳥海さん

大館 地区支部

大館地区支部長 伊藤 深雪

「ふれあい看護体験」

今年も夏休みに入った7月22日・23日、大館市内の病院及び高齢者施設の4施設で高校生1・3年生37名を受け入れ、看護体験を行いました。参加学生は緊張しながらも病棟での体験を通し、実際に患者さんの手や足を洗ったり、身近に看護師の仕事を見ることで、「患者さんに感謝され嬉しかった」「看護師は大変だが、やりがいのある仕事」と感じてもらう事ができ、看護師になりたい気持ちを強くした様子が伺えました。

今後も、より多くの学生が看護の道をめざすことができるよう「ふれあい看護体験」を創意工夫しながら継続したいと思います。



「ボランティアフェスティバルーまちの保健室」

9月29日、大館市の秋田県北部老人福祉エリアで開催された「第26回大館ボランティアフェスティバル」に参加し、地域住民の看護についての理解を深める事を目的として「まちの保健室」「ちびっ子ナース写真撮影」を行いました。当日は最高の秋晴れで参加者も多く、血圧測定や体脂肪測定、また、健康指導や健康相談で多くの住民の方々とふれあうことができました。

写真撮影では、白衣を着てポーズをとる子供たちに保護者の方々は満足、白衣を脱ぎたくないという声も出て、会場はおおおいに盛り上がりしました。次年度も地域住民の健康増進のための活動をしていきたいと思っています。



由利本荘・にかほ 地区支部

由利本荘・にかほ地区支部長 三浦 瑞枝

「地区支部研修会」

9月26日午後6時から、地区内で活躍している緩和ケア認定看護師の小松繭子氏を講師にお迎えして、「緩和ケアの基本～生きることを支えるケアとコミュニケーション技術～」というテーマで研修会を開催いたしました。今回は、プラネタリウムの投影も行うことができる会場で、幻想的な雰囲気の中、多くの会員の方に参加していただきました。

緩和ケアとは、「さまざまな苦悩、苦痛、困難な状況にある患者の『生活を支える看護』である」、とまとめていただき、参加者も熱心にメモを取り、事例に共感する様子もうかがえました。緩和ケアは決して特別なことではなく、日ごろ行っている「聴く・対話する・観察する」という基本的な技術を活用

し、患者と向き合い寄り添う看護であるという認識を新たにしました。



大仙・仙北 地区支部

大仙・仙北地区支部長 北村 美恵子

「看護週間体験事業 一日看護学生」

7月23～24日管内の3病院において地区の高校生73名を対象に開催致しました。

看護師になるための教育制度、先輩看護師の体験談、手浴、足浴、車椅子・ストレッチャー搬送、配膳などの看護体験実習をしました。将来看護師になりたい、医療関係の道に進みたいと希望する高校生が多く、患者様とのふれあいの中で心のケアの大切さを実感したと話していました。また、何かをするたびに「がんばれな」「ありがとう」「頑張って看護師になってね」などのお言葉をかけていただき嬉しかったようです。将来看護師になりたいという思いがさらに強くなったなどの感想が聞かれました。ご協力いただいた各病院の方々に感謝致します。



「まちの保健室」

9月13日午後1時からイオンモール大曲において開催致しました。今年度もイオンモール大曲のご好意により店内の「花火の広場」をお借りし、地域の方たちの血圧測定、健康相談、介護相談、体脂肪測定、モデルを用いた乳癌の自己検診、ちびっこナース写真撮影などを行いました。参加人数は100名、ちびっこナース写真撮影の参加は5名あり、自分の健康あるいはご家族の健康に関する質問も多く、健康に関する関心の強さが伺われました。



「看護研究発表会」

10月25日午後6時より、由利本荘医師会病院講堂において開催いたしました。

例年を上回る7題の演題が寄せられ、また90名にも及ぶ参加者で盛会に執り行うことができました。管内5施設から寄せられた研究内容は、それぞれの施設の特徴を反映した実践に基づくもので、質疑応答も活発に行われました。

発表後は、由利本荘看護学校副校長の佐々木澄子先生に講評をしていただきました。

佐々木先生の講評は、一つひとつ丁寧に解説と指摘をして賞賛をくださり、現場での研究の大切さを伝えて



いただいたと感じられるものでした。

忙しい業務の合間にまとめ上げた研究を地区の多くの仲間と共有できて、とても有意義な時間であったと感じた研究発表会でした。

看護職員再就業 促進事業

講義研修・臨床実務研修 終了報告

1

講義研修

- 開催日：平成25年8月27日(火)～28日(水)
- 開催場所：秋田県看護協会第1研修室
- 受講者：8名
[平均年齢：42歳／実務経験年数：1年～25年
離職期間：4ヶ月～20年]

●受講動機：

- ◎看護技術の感覚を取り戻して復帰したい。
- ◎被災地で看護ボランティアを半年間続けて医療の重大さを改めて実感した。
- ◎再び看護師として働きたいと思ったが、ブランクが長く再教育が必要なため。
- ◎勤務が決まったが、4年間のブランクが不安となっていた。研修を通して学びたい。等

●講師および講義内容

日時	講師	講義内容
8月27日	秋田県看護協会 会長 烏 トキエ氏	最近の看護の動向
8月27日	市立秋田総合病院 看護部長 吹谷 由美子氏	病院における看護職員の役割 チーム医療、看護者の倫理
8月28日	由利組合総合病院 副看護部長 新妻 美貴子氏	医療安全対策
8月28日	男鹿みなと市民病院 感染管理認定看護師 安藤 松吾氏	感染管理

2

臨床実務研修

- 開催日：平成25年9月3日(火)～10月18日(金)
- 研修者：4名
[平均年齢：36歳／離職期間：6ヵ月～20年]
- 研修病院：◎男鹿みなと市民病院 ◎由利組合総合病院
◎秋田県立脳血管研究センター ◎市立秋田総合病院

●研修終了報告(研修生提出から一部抜粋)

私は3つの目標を持って研修に参加した。1つ目は「6か月のブランクを埋めること」である。2つ目は「自己体調管理の改善」、3つ目は「現在の自分の能力と求められる能力を知ること」である。今回研修に参加して、近年における医療現場と看護の変化を知ることができた。実習先では各病棟、各部門毎に特殊性があることを知識だけでなく、経験することで真の理解ができた。それは仕事を一面として見るのではなく、多面化し分析していくことが看護の壁＝不安を取り除く近道になるのではないかと思った。この事業に参加したことによって「変わろうとする自分」に希望を持つことができた。

●研修に関する感想・ご意見(研修生のアンケート結果より一部紹介)

- ◎10年のブランクがある私にとって講義だけでなく実習を受けることで、講義の内容と医療現場での実際の場面がつながりより深く理解することができた。
- ◎久しぶりに臨床の場にでるとやっぱり働きたいと感じた。同時に人の命に関わっているということも再認識し、怖いなど感じる部分もあった。どのような職場で働くことが一番なのか考えることもでき、貴重な体験になった。

●研修病院の意見

- ◎研修プログラム作成にあたり、どこに焦点をおけばよいのか、協会が期待することと一致するのか悩み、今現場で行われているものに焦点を絞って作成した。
- ◎病院または施設で教育の機会を提供することはとても重要だと再認識した。病院での研修で働く環境を理解し、チーム医療や接遇等重要性を知ってもらう事で更に、「仕事をしたい」という気持ちをもてるように今後も支援していきたい。

平成25年度

災害支援 ナース フォローアップ 講習会



◆開催日:平成25年9月20日(金)13:00~16:00

◆開催場所:秋田県保健センター第1研修室

◆参加者:災害支援ナース登録者10人(平成25年9月現在の登録数:58人)

◆ねらい:災害支援ナースとしての役割や活動を再確認する。

◆内容:救護施設の被災者等の役割を委員が実演し、受講者は2チームに分かれ災害支援ナース各2名を決めて、救護所を訪問する場面から、実際の援助を行った。途中シンキングタイムを設け、チームで意見交換し、災害支援ナースが実践した場面を他チームが評価し、良かったことや、追加すること等について意見交換を行った。

◆アンケート結果(回収率100%)

◆職種:看護師:10人 ◆年齢構成:20代3人、30代:4人、40代:2人、50代:1人

◆支援ナースとして経験者:2人

◆役割の理解について

☐現場想定の上、具体的な活動のイメージを持つことができた。

☐グループで考え行動することの必要性について理解できた。

☐とても実践的な研修内容で、よく考えながら学ぶことができた。様々な考え方、方法があるので、よく状況を把握し、他のナースとも相談して援助していくことが大切だと思った。

平成25年度

災害支援 ナース 育成講習会



◆開催日:平成25年10月23日(水)9:30~15:30

◆開催場所:看護協会第1研修室

◆参加者:41人

◆ねらい:1)災害支援ナースの活動の実際が想定できる。
2)災害支援ナース登録を目指す看護師を育成する。

◆内容:1)災害支援ナースの役割と心構え
2)東日本大震災時の災害支援ナースとしての活動報告(委員3人)
3)演習

大規模災害が発生したと想定。情報収集の方法、派遣要請への対応、派遣決定、携行品準備、派遣現場への移動、実際の活動(避難所支援計画から活動成果まで)を、時系列に細かく場面を設定し、場面毎に何を考え、どう行動するのか等を、グループで意見交換、発表し合った。
4)秋田県看護協会災害支援ナースマニュアルの説明及び登録推進について

◆アンケート結果(アンケート回収数40:回収率98%)

◆職種:助産師1名 看護師38名 准看護師1名

◆活動にあたり問題と考えられること

☐家族・家庭の状況 ☐職場・上司の理解、勤務調整 ☐現場の状況把握をすぐにキャッチする難しさ。

◆学んだこと、感想

☐心身の健康管理の大切さも学んだ。 ☐看護師になってよかったと思った。

☐研修を受ければ受けるほど「心構え」が重要と痛感した。

☐グループワークで答えのない問題をディスカッションすることで、様々な意見・考えにふれることができた。

☐活動前の準備など具体的に考えることができた。

☐被災地での状況把握の難しさを改めて知ることができた。少しでも力があれば、支えとなって活動できる知識を身につけて対応していきたい。

◆今後の企画への要望

☐災害ナースを受け入れた病院や避難所の方からも実際話を聞きたい。

☐年に2~3回、活動報告+支援ナーストレーニングのような研修をしてほしい。

リスクマネジャー交流会

開催日時 ■ 平成25年10月26日(土) 9:30~15:30

開催場所 ■ 看護協会第1研修室

参加者 ■ リスクマネジャーの任にあるもの 20人

講師 ■ 帯津三敬病院 看護部長 武藤朋子氏

内容 ■ テーマ「明日からあなたの安全スイッチオン！」

実践報告 ■

報告者	実践報告者所属施設名
三ヶ田 とし	かづの厚生病院
沢田石 良子	外旭川病院
辻 隆行	秋田緑ヶ丘病院
平澤 昭子	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
三浦 淑恵	秋田赤十字病院

グループワーク ■ (県北1、県南1、中央2で編成)・まとめ・発表

■ アンケート結果

■ 参加者20人 ■ アンケート回収20人(回収率100%)

■ 参加者職責:医療安全管理者(専任:6人、兼任:3人)

リスクマネジャー:9人

医療安全に関わるメンバー:2人

■ 内容:

■ 非常に理解できた(11人)理由⇒各病院の取り組みが分かり、自分が不足しているものを知ることができた。新しい知識を得たことで更にレベルアップしていきたい。

■ 理解できた(9人)理由⇒他の病院でも似たような悩みがあることがわかった。

■ 現場への活用:データを活用すること、自分の言葉で納得できるよう説明をすること。

研修の年間計画、コアメンバーからの協力。医局への関わり

■ 交流会継続について: ■ 課題や解決策の意見交換ができ参考になった。 ■ 各施設の温度差があるので、レベルアップのためにも必要である。 ■ 同じ悩みを共有できる。

安全情報 No.2

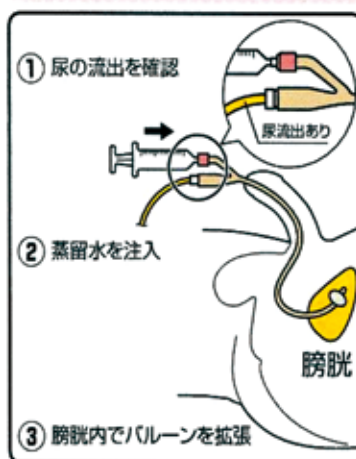
医療・看護安全委員会

膀胱留置カテーテルを留置する際、尿の流出を確認せずバルーンを拡張したことにより、尿道を損傷した事例が報告されています。対策を検討する際に参考にしましょう。

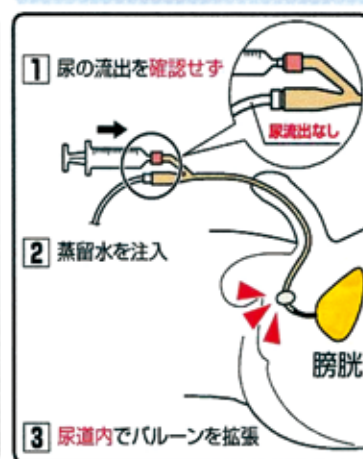
膀胱留置カテーテルによる尿道損傷の事故対策

1. 膀胱留置カテーテルの留置は、十分な長さの挿入を行い、尿の流出を確認した後にバルーンに蒸留水を注入する。
2. 尿の流出がない場合は時間を置き、尿の流出を確認した後、バルーンを拡張する。 など

膀胱留置カテーテル留置時の手順



事例のイメージ



※公益財団法人 日本医療機能評価機構「医療安全情報」より引用しました。
詳細は公益財団法人 日本医療機能評価機構HPをご覧ください。

公益社団法人 日本看護協会より「医療安全推進のための標準テキスト」が発刊されました。

全国8,600の病院に送付されました。

日頃の医療安全推進のために、先ずはご一読ください。そして次はアクションです。日本看護協会HPにも掲載されています。

理事会 だより

第4回 理事会

日 時 ■平成25年7月30日(火) 午後1時30分～午後5時12分

場 所 ■秋田県看護協会 第1研修室

出席者 ■理事19名、監事3名 欠席者:理事1名

1. 議 事

- 1) 平成26年度秋田県看護協会通常総会の日程案について……………承認
- 2) 地区支部委員の変更について……………承認
- 3) 平成24年度未収入金に係る雑損失処理について(案)……………承認

2. 協議事項

- 1) 公益社団法人秋田県看護協会認定看護管理者制度教育課程細則の改正について
- 2) 認定看護管理者制度教育運営委員会要綱の改正について
- 3) 秋田県看護行政懇談会について
- 4) 日本看護協会への要望について
- 5) 地区理事及び職能理事の理事会欠席におけるオブザーバーの出席について

3. 報告事項

- 1) 事業報告 (1) 業務執行状況報告 (2) 地区支部事業報告 (3) 庶務報告
- 2) 会計報告
- 3) 第1回財務に関する検討会報告
- 4) 平成25年度ふれあい事業に係る贈呈先について
- 5) 平成25年度第44回日本看護学会－成人看護Ⅱ－学術集会について
- 6) 平成25年度環境・保健事業功労知事表彰候補者について
- 7) 子育て応援団「すこやかあきた2013」について
- 8) 日本看護協会理事会報告

第5回 理事会

日 時 ■平成25年9月27日(金) 午前9時50分～午後4時55分

場 所 ■秋田県看護協会 第1研修室

出席者 ■理事20名、監事3名 欠席者:なし

1. 議 事

- 1) 平成26年度重点事項(案)について……………承認
- 2) 平成26年度予算編成方針(案)について……………承認
- 3) 銀行口座の停止について……………承認
- 4) 平成26年度教育企画(案)について……………承認
- 5) 秋田県看護行政懇談会への提示事項について……………承認

2. 協議事項

- 1) 日本看護協会への要望について

3. 報告事項

- 1) 日本看護協会理事会報告
- 2) 事業報告 (1) 業務執行状況報告 (2) 地区支部事業報告 (3) 庶務報告
- 3) 会計報告
- 4) 第2回財務に関する検討会報告
- 5) 平成25年度第44回日本看護学会－成人看護Ⅱ－学術集会について
- 6) 全国職能委員長会報告について
- 7) 平成25年度環境・保健事業功労知事表彰者について
- 8) 医療事故発生時の対応体制について
- 9) 平成24年度衛生行政報告例(就業保健師・助産師・看護師・准看護師)の概要について

功労者表彰おめでとうございます。

秋田県庁正庁にて、平成25年度環境・保健事業功労者表彰式が行われました。



平成25年度 環境・保健事業 功労者表彰 受賞者

(順不同)

新 野 隆 子	秋田赤十字病院 看護師長
丸 山 裕 子	秋田組合総合病院 看護副師長
伊 藤 とく子	平鹿総合病院 看護副部長
佐々木 久美子	秋田県成人病医療センター 看護部長
梅 田 智 子	能代山本医師会病院 看護師長
高 橋 律 子	由利組合総合病院 看護師長
大須賀 滝 子	本荘第一病院 総看護師長
川 又 留以子	かづの厚生病院 看護副部長
伊 藤 睦 子	秋田県厚生農業協同組合連合会 医療従事者確保対策室 看護部長
五代儀 明 美	北秋田市民病院 看護副師長



平成26年度改選役員及び推薦委員の 立候補並びに推薦について

平成27年度日本看護協会代議員及び予備代議員の 立候補並びに推薦について

選挙管理委員会 からのお知らせ

平成26年6月18日(水)に開催される通常総会において、改選役員、推薦委員及び代議員等の選挙を実施いたしますので、立候補並びに受付期間などについてお知らせいたします。(立候補には正会員5人以上の推薦が必要です。)

I 改選役員数と役職名等

1. 役員

理事 10名(任期2年)

会長、副会長、常務、会計、看護師職能、由利本荘・にかほ、大仙・仙北、横手、湯沢・雄勝、准看護師

監事 1名(任期4年)

2. 推薦委員 2名(任期2年)

3. 代議員 8名(任期1年)

4. 予備代議員 8名(任期1年)

II 立候補受付期間

平成25年12月16日(月)

～平成26年2月21日(金)(必着)

III 立候補届出用紙

本会ホームページからダウンロードしてご使用ください。

IV 立候補届出先

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6
公益社団法人 秋田県看護協会内
選挙管理委員会あて

推薦委員会 からのお知らせ

平成26年度改選役員、推薦委員及び平成27年度代議員等の候補者について、会員各位におかれましては、次の項目に該当する方を公募いたします。

1. 推薦基準

- (1) 秋田県看護協会の目的に沿って、組織を強化・発展させるよう実践できる人。
- (2) 秋田県看護協会事業に熱意を持って、共同できる人。
- (3) 本会の実情に合わせて、定例会に参加できる人。

2. 推薦方法

推薦用紙に記入し、郵送をお願いします。
(推薦用紙は本会ホームページからダウンロードしてご使用ください。)

3. 受付期間

平成25年12月16日(月)

～平成26年2月7日(金)(必着)

4. 改選役員数と役職名等

1. 役員

理事10名(任期2年)

会長、副会長、常務、会計、看護師職能、由利本荘・にかほ、大仙・仙北、横手、湯沢・雄勝、准看護師

監事 1名(任期4年)

2. 推薦委員 2名(任期2年)

3. 代議員 8名(任期1年)

4. 予備代議員 8名(任期1年)

5. 推薦書届出先

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6
公益社団法人 秋田県看護協会内
推薦委員会あて

INFORMATION

事務局からの連絡・報告

平成26年度 認定看護管理者教育に関するお知らせ

平成26年度認定看護管理者セカンドレベル教育について受講希望が高いことから開催することに決定しました。ファーストレベル教育については、従来通り1回の開催となります。尚、平成27年度はサードレベル教育課程を実施する場合は、同年度のセカンドレベル教育は休止予定です。

あなたの輝きが、喜びです。

東洋羽毛の羽毛ふとん

Since 1954



Shanti
— シャンティ —

おはよの未来へ

ぐっすり眠れた、朝の「おはよう」から
今日という未来が始まります。

毎日の未来の積み重ねが、輝くあなたをつくります。

東洋羽毛北部販売株式会社 秋田営業所
〒010-0951 秋田市山王6丁目9-25-5F **0120-639601**

おかげさまで60周年
Anniversary

労働保険(労災保険・雇用保険)の加入手続きはお済みですか

労働保険は、農林水産業の一部を除き、労働者を一人以上使用する全ての事業主が加入することとなっています。
該当する場合は、事業主及び労働者の意向に関わらず、法律上、当然加入の手続きを行うことが事業主の義務となっています。まだ加入されていない場合は、早急に最寄りの労働基準監督署がハローワーク(公共職業安定所)にご相談されますようご案内いたします。

秋田労働局総務部労働保険徴収室 秋田市山王7丁目1番3号 電話:018-883-4267

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

めっきり寒さが増した今日この頃です。紅葉の季節も瞬く間に過ぎ去ってしまいました。長く生きているとすべてが一瞬の出来事のように感じます。

今年度から広報委員となり、他の施設の方と交流が持てるチャンスを得ることが出来ています。またこのようなチャンスがなければ「看護あきた」の編集過程も知る事が出来なかったと、感謝・感激の日々です。

これからさらに極寒秋田の冬がきますが、来年も会員の皆様に「ホッと」な話題を提供できるよう頑張ろうと思います。では良いお年を…。 (記・嘉藤 久仁子)

看護あきた Vol.114 平成25年度 3号

Nursing Akita



発行日/平成25年12月16日

発行責任者/公益社団法人 秋田県看護協会 会長

発行所/公益社団法人 秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577